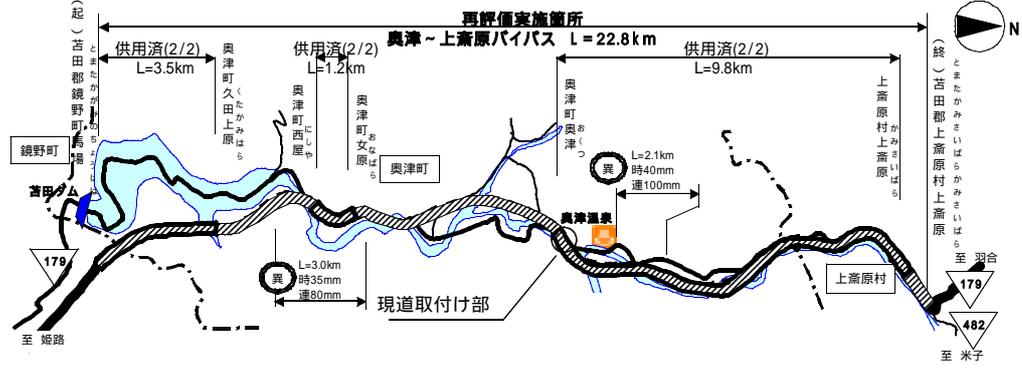


## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課  
担当課長名：中島 威夫

<b>事業名</b> ：一般国道179号 奥津～上斎原バイパス	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：岡山県
<b>起終点</b> ：自：岡山県苫田郡鏡野町馬場 至：岡山県苫田郡上斎原村上斎原	<b>延長</b> ：22.8km	
<b>事業概要</b> ： 一般国道179号は、京阪神地方から岡山県北の中心都市である津山市を経て、山陰地方を結ぶ陰陽連絡の重要路線で、兵庫県姫路市を起点とし鳥取県東伯郡羽合町に至る実延長約15.9kmの幹線道路である。奥津～上斎原バイパスは、異常気象時交通規制区間及び隘路区間の解消を目的とした、岡山県苫田郡鏡野町から同郡奥津町を経て、同郡上斎原村に至る延長約22.8kmの道路である。		
S57年度事業化：都市計画決定なし      S58年度用地着手      S63年度工事着手		
全体事業費：約29.6億円      事業進捗率：97%      供用済延長：14.5km		
計画交通量：4,200台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	B/C：(事業全体) 1.0 (残事業) 4.4	総費用：(残事業)/(事業全体) 20/43.6億円 (事業費：9/39.4億円)      (維持管理費：11/4.2億円) 総便益：(残事業)/(事業全体) 8.8/44.5億円 (走行時間短縮便益：87/413億円)      (走行費用減少便益：1/29億円)      (交通事故減少便益：0/3億円)
<b>感度分析の結果</b> ：残事業（事業全体）について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.6(1.1)(交通量+10%)      B/C=4.1(0.9)(交通量-10%) 事業費変動：B/C=4.3(1.0)(事業費+10%)      B/C=4.4(1.0)(事業費-10%)		
<b>事業の効果等</b> ・国土・地域ネットワークの構築（津山市～倉吉市の日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する） ・災害への備え（現道の事前通行規制区間が解消する）      他12項目に該当		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 一般国道179号奥津～上斎原バイパスは、地域交流の促進、道路の防災対策等に重要な役割を果たすことが期待されており、奥津町をはじめとする関係1市2町1村の首長により構成される国道179号線津山羽合間道路整備促進期成会より早期整備の要望（平成15年7月11日）を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 交通量は増加傾向にあり、地域づくり支援等の観点から早期整備が望まれている。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> これまで順次部分供用を図ってきたが、現道への取付の一部を残し、本線部は平成15年11月に全線供用している。平成16年度以降に現道取付部の施工を予定している。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 一部ルートについて、県立自然公園特別地域に影響する区間があり、自然保護団体からの強い要望から、その調整に長期間を要した。また、ルート協議に伴い一部地権者の用地買収が難航したが、現在、本線部は全て供用しており、今後取付け部の工事を進め平成17年度の事業完了を目指すものである。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 特になし		
<b>対応方針</b> ：事業継続		
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
<b>事業概要図</b>		
		
<b>凡 例</b> 供用済 再評価箇所 うち供用中		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。